

地誌 第9回「南アジア地誌① 自然地理と社会・文化」

○今回のポイント

南アジアの自然環境 (資料集 p.156～)

○南アジアとは? ⇒インド、パキスタン、バングラデシュ、スリランカ、ネパールなどが含まれる地域

○地形

- ・新期造山帯の[①]]
⇒[②]]、チベット高原、パミール高原など

ヒマラヤ山脈はインド(インド・オーストラリアプレート)がユーラシア大陸(ユーラシアプレート)に衝突したことで、地層が激しく押されて隆起して山脈になったもの。

- ・[③]]…インドの中部から南部にかけて広がる[④]]など。
かつてのゴンドワナ大陸に属する。

ゴンドワナ大陸は、古生代から中生代にかけて南半球に広がっていた大陸。その後、分裂、移動して現在の南アメリカ大陸、アフリカ大陸、南極大陸、インド、アラビア半島などになった。

- ・[⑤]]…インド東部を流れ、ベンガル湾にそそぐ。
⇒[⑥]]…ガンジス川が運搬して堆積して形成された沖積平野
⇒河口部…[⑦]]が形成され世界有数の稲作地域
- ・[⑧]]…パキスタン東部を流れ、アラビア海にそそぐ河川。流域の大部分は乾燥気候。
⇒[⑨]]…インダス川中流域。灌漑によって小麦や綿花などの栽培が盛ん。

○気候

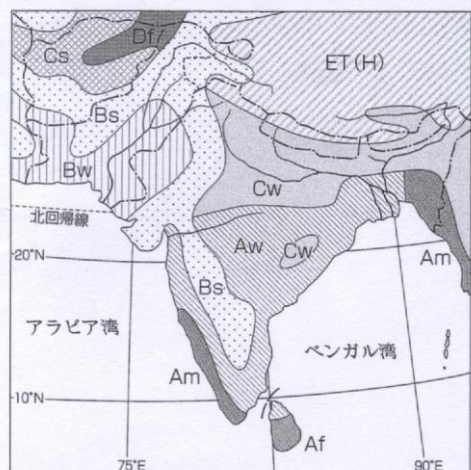
① 季節風の影響

- ・[⑩]]季節風…夏(5月～10月)に海洋から吹く湿った風。
⇒インド南西岸、インド北東部のアッサム地方に大量の降雨。
※サイクロン(インド洋で発生する熱帯低気圧)も沿岸部に大量の雨をもたらす。
- ・[⑪]]季節風…冬(11月～4月)に大陸から吹く乾燥した風。広い範囲で少雨。

② 中緯度高圧帯(亜熱帯高圧帯)の影響

- ・インド北西部やパキスタンに[⑫]]を分布させる原因。

③ インドの気候区分



▲南アジア・西南アジアの気候

- ・Af、Am…インド[⑬]]や[⑭]]南部。年中高温多雨。
- ・Aw…インド東部とスリランカ北部。雨季と乾季が明瞭。
- ・Cw…[⑮]]川中上流域では季節風の影響で夏に多雨、冬に少雨。
- ・BS、BW…[⑯]]やインド北西部からパキスタンにかけての地域。

インドの多様な文化

- ・国土面積…328.7 万km²(世界 7 位)
- ・人口…約 12.2 億人(2010 年、中国に次いで 2 位)

(1)言語

- ・全国的な公用語は[⑰]だが、言語は統一されておらず数百の言語がある
- ・補助公用語は英語、21 の憲法公認語が設定されている。
- ・北部は印欧系語、南部はドラヴィダ系語

(2)宗教

- ・ヒन्दゥー教…全体の 8 割。バラモン教の教義に仏教や土着信仰が結びつき成立。
- ・[⑱]…1526～1858 年にインドを支配したムガル帝国がイスラーム教国だったので信者がいる。
- ・キリスト教…ムガル帝国後、イギリスがインドを支配したので、キリスト教の信者がいる。
- ・仏教、ジャイナ教、シク教など

(3)イギリスからの独立

○英領インド

- ・インド…ヒन्दゥー教徒を中心としてイギリスから独立。
- ・[⑲]…イスラーム教徒を中心としてイギリスから独立。東西に飛び地で分離した。
⇒バングラデシュ：西側優遇政策が採られたため、東パキスタンが分離独立。
- ・スリランカ…[⑳]のシンハラ人を中心に独立。だが英領時代にタミル系ヒन्दゥー教徒が入植したので民族問題が生じている。

ヒन्दゥー教と人々の生活

○カースト制度

☆[㉑](4 身分)と不可触民☆

- ・4 身分…バラモン(祭司)・クシャトリア(王侯貴族)・ヴァイシャ(商人職人)・シュードラ(隷属民)
- ・不可触民…ヴァルナの枠外に置かれた最下層民。



☆[㉒]☆

- ・4 ヴァルナが細分化。祖先が同じだと信じ、そのうちでのみ通婚する血縁集団。
- ・集団間の儀礼的な上下関係から差別が派生
- ・雇用の斡旋、貧困者の援助など相互補助の側面。ジャーティーの規範を守り、来世を目指す。



ジャーティーによる身分制度は[㉓]と通称される。

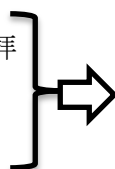
○生活と伝統

- ・肉食をしない人が多い(ただし牛の乳は摂取しても良い。)。女性は[㉔]を身につける

巨大な人口と地域差

○人口増加の要因

- ・[㉕]的要因…子孫を増やして祖先崇拜
- ・労働力的要因…仕事の担い手、老後の安心
- ・医療的的要因…死亡率が低下



・インド政府 1960 年代から家族計画
→都市部では 70 年代から低下。地域差激しい
※識字率・教育普及の程度、貧富の格差により
差異が生じる。